

# ひまわり栽培ごよみ

月	2			3			4			5			6			7			8			9			10			11			12		
	旬	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
直まき	<div style="text-align: right; border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">                     目標収量 30,000 本以上                      秀品出荷率 80%以上                 </div>																																

## 1) 品種

### 【黄色～オレンジ系】

サンリッチオレンジ、レモン、フレッシュ、マゴー  
いずれもF1品種で、花粉がでない。は種後55～70日で収穫。

サンリッチパイン45。は種後最短45日で収穫。

### 【赤～ブラウン系】

チョコフレック、ブラッドレッド、ココア、ムーランルージュ等

### 【八重咲き品種】

東北八重、レモンエクレア、モネのヒマワリ等

## 2) 栽培技術

### は種

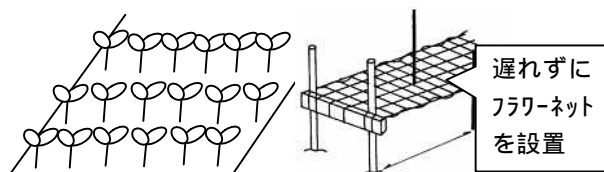
種子量 30ml / 坪

栽植株数 46,000～54,000 株/10 a

#### - 栽植様式 -

うね幅 150～180 cm 株間 10～12 cm  
条間 10～12 cm 8～10 条植え

場所に合わせて条数は変更可。株間と条間を守る。



発芽適温：25（10以上なら約3～5日で発芽）

無理な早まきは避ける。特に直まきのときは温度（地温）に留意すること。

2月のは種は、移植栽培が無難なので、ペーパーポット等には種すれば定植が容易になる。

### ほ場準備

少肥料や節水管理が必要なので、根が伸長できないような停滞水があるほ場、粘土質が強く、土塊の粗いほ場は、暗きよや明きよによる排水対策をし、有機物（肥料分の少ない）の施用などにより土壌性を改善する。

### 定植（移植栽培の場合）

本葉1.5～2枚程度が定植適期（は種後10日頃）。

温度は15以上あれば順調に生育する。

ハウス促成では温度管理に注意する。特に霜の降りるようなときは確実に保温が行われるようにする。

### 施肥

元肥は、前作の有無、種類にもよるが、基本的には普通畑であれば無肥料でスタートし、土作り肥料のみを投入する。生育に応じて追肥で対応した方がよい。

### - 施肥例 - 1a（30坪）当たり

苦土石灰 8kg（pHで調整。pH5.5～6.5）

B M 苦土重焼燐 6kg

原則的には、土作り肥料以外は投入しない。  
地力の低いほ場ではN成分0.2kg/1a程度  
（有機入り化成）。

### かん水

発芽揃いまでは土壤水分を保つが、その後は、生育が旺盛にならないように、徐々にかん水量を減らし、乾燥気味の管理とする。品種別特性参照

### 温度管理

生育適温：20～30

夜温は10以下にならないように保温または加温、日中は30以上にならないように換気する。

### その他

支柱、ネットの設置：2m間隔に支柱を立てる。ネットは生育にあわせて、草丈の2/3高さに設置する。

### 病害虫防除

病害では斑点細菌病、べと病、さび病、うどんこ病、灰色かび病などが発生する。

いずれも高温・多湿で発生しやすいので換気を徹底し、薬剤防除と合わせた防除体系をとる。

害虫では、アブラムシ、ハダニ、アザミウマ、ヨトウムシ類が発生するので、予防と早期防除に努める。

## 3) 草丈抑制技術

### ・移植による草丈抑制

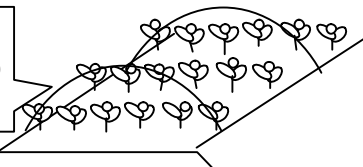
作付けほ場の地力が高く、直まき栽培では草丈が伸びすぎる場合や5～6月は種草丈が伸びやすい作型で活用できる。

128～200穴のセルトレイに播種し、育苗（やや老化苗になるまで）することで、花芽分化を早め、草丈を抑制する。

### ・短日処理による草丈抑制

短日の方が開花が早まることを利用したもの。本葉1枚展開から2～3週間9時間日長の短日処理（17時～8時まで）することで1～2週間程度開花が早まり、草丈伸長も抑制することができる。

トンネル状に遮光  
資材（ポリトンネル等）  
で覆う 17:00～8:00



## 4) 収穫

花びらが90°～160°になったら出荷適期。出荷要領をに従って出荷する。

